

COC+事業における特色人材育成部門まちづくりWGの活動報告（その4）*

吉村 朋矩^{*1}, 伊豆蔵 庫喜^{*2}

Report of Educational Activity for Distinctive Human Resource Development in Community Planning Working Group of COC+ Program (PART 4)

Tomonori YOSHIMURA^{*1} and Kouki IZUKURA

^{*1} Faculty of Engineering, Department of Architecture and Civil Engineering

MEXT (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology) is being conducted program for promoting regional revitalization by universities as centers of community (COC+ program) at present. The purpose of COC+ is to make a flow to the regional of "core person" for the regional revitalization. The Community Planning Working group by COC+ in Fukui prefecture has composed of all four-year university in prefecture. Therefore, We can make use of the expertise of 4 universities. This report, We'll make a report of its past activities in the community planning working group for fiscal year 2019. Especially introduce the practical workshop worked especially in Takahama town, Fukui Prefecture.

Key Words : COC+Program, Human Resources Development, Regional Revitalization

1. はじめに

福井県内の4年制大学（福井大学，福井県立大学，福井工業大学，仁愛大学，敦賀市立看護大学）が連携する5大学連携事業として、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+ : Centers of Community）」に採択された。事業を推進する「ふくいCOC+事業推進協議会」が設置されている。筆者らは，教育プログラム開発委員会特色人材育成部門のまちづくり分野ワーキンググループ（以下，まちづくりWGという。）に所属している。まちづくりWGは，特色人材育成部門のワーキングの中で，唯一5大学が連携し協働で運営している組織である。

そこで本稿では，まちづくり分野WGが2019年度に取り組んだ“まちづくり実践ワークショップ（以下，実践WSという。）”の過程と実践について報告する。具体的には，学生が和田de路地祭の開催当日までに学生企画会議を通して取り組んだ企画の作成や作業について，さらには開催日に学生が取り組んだ内容を報告する。実践WSは2016年度より高浜町和田地区において，高浜町ならびに和田de路地祭実行委員会の協力を得て取り組んできている。2016年度から2018年度までの実践WSの報告，まちづくりWGでの議論の活性化・活動内容の深化を図るために本学で独自に筆者らが取り組んできた内容，まちづくりWGの構成員，各大学の役割についてはこれまでの報告を参考にされたい^{(1),(2),(3)}。

2. 2019年度の取り組み

まちづくりWGでは，和田de路地祭（以下，路地祭という。）実行委員会への参加，学生企画会議，路地祭でのCOC+企画の実施を含め主な活動としてTable.1に示すように，2019年度には27回に亘り活動を行ってきた。WG会議については，2019年4月から現在までにメール審議での会議を含めて7回開催している。さらに，5大

* 原稿受付 2020年5月29日

^{*1} 工学部 建築土木工学科

^{*2} 大学事務局

E-mail: yoshimura@fukui-ut.ac.jp

学の学生・教職員が連携するとともに、福井県高浜町の協力を得て実践 WS を 2018 年 4 月から 9 月に開催している。2019 年度の実践 WS を遂行するに当たり、これまでの実践 WS での教育プログラムの確立と、学生と地域住民とのプラットフォームを構築しようと、県内大学の地域人材育成事業（福井県）に「和田 de 路地祭～民宿と路地を活用した景観・空き家活用・観光まちづくり」（事業分担者）をテーマとして申請した。その結果、採択を受けたことから、2019 年度は COC+事業ならびに福井県から助成を受けて実践 WS に取り組むことができた。その他、本学独自の取り組みとして、2019 年度までの実践 WS で“サイクルツーリズム”や“自転車のある暮らし”をキーワードとして本学学生が提案し取り組んできた。2019 年度には、これまでに本学の学生が自転車をキーワードに提案し実施してきている企画の検証、今後の検討を行おうとサイクルツーリズムの先進事例地である滋賀県を拠点に活動している輪の国びわ湖推進協議会の担当者とアーバンデザインセンターびわこ・くさつの担当者と意見交換を図った。第 3 者から意見や助言を受けることで、今後の検討課題や方向性を見出すことができた。

Table.1 まちづくり WG での取組み（2019 年度）

年	回数	日時 / 場所	WG会議	まちづくり実践WS
2019	1	4月5日（金） / 福井大学		新入生勧誘に向けた打ち合わせ
	2	4月18日（木） / 福井大学		路地祭開催に向けた打ち合わせ
	3	5月10日（金） / 高浜町和田地区		第 1 回 路地祭実行委員会
	4	5月12日（日） / 高浜町和田地区		和田地区を知るためのまち歩き
	5	5月17日（金） / 高浜町和田地区		第 2 回 路地祭実行委員会
	6	5月18日（土） / 高浜町和田地区		和田地区を知るためのまち歩き
	7	5月19日（日） / 高浜町和田地区		和田地区を知るためのまち歩き
	8	6月13日（木） / Fスクエア（大学連携センター）	第 1 回 まちづくり分野WG	第 1 回 学生企画会議
	9	6月14日（金） / 高浜町和田地区		第 3 回 路地祭実行委員会
	10	7月2日（火） / 福井大学		第 2 回 学生企画会議
	11	7月5日（金） / 高浜町和田地区		第 4 回 路地祭実行委員会
	12	7月11日（木） / 高浜町和田地区		和田地区を知るためのまち歩き
	13	7月25日（木） / Fスクエア（大学連携センター）	第 2 回 まちづくり分野WG	
	14	8月9日（金） / 高浜町和田地区		第 5 回 路地祭実行委員会
	15	8月20日（火） - 22日（木） / 高浜町和田地区		和田泊まり込み作業
	16	8月21日（水） / 高浜町和田地区		ファッションショー 打ち合わせ
	17	8月26日（月） / 福井大学		第 3 回 学生企画会議
	18	9月5日（木） / 福井工業大学		学生企画進捗状況の打ち合わせ
	19	9月9日（月） - 16日（月） / 高浜町和田地区		和田泊まり込み作業
	20	9月11日（水） / 高浜町和田地区		第 5 回 路地祭実行委員会 決起集会
	21	9月14日（土） / 高浜町和田地区		長街宴（前夜祭）
	22	9月15日（日） / 高浜町和田地区		『第11回 和田de路地祭』で COC+企画の実施
	23	10月9日（水） / 高浜町和田地区	第 3 回 まちづくり分野WG	第 6 回 路地祭実行委員会
	24	11月5日（火） / Fスクエア（大学連携センター）	第 4 回 まちづくり分野WG	
	25	12月13日（金） / Fスクエア（大学連携センター）	第 5 回 まちづくり分野WG	
2020	26	2月（メール連絡での審議）	第 6 回 まちづくり分野WG	
	27	3月（メール連絡での審議）	第 7 回 まちづくり分野WG	

3. まちづくり実践ワークショップ

3.1 まちづくり実践ワークショップに向けた準備・過程

3.1.1 まちづくり実践ワークショップの目的

まちづくり分野 WG では 2016 年度に WG の目標として「次代を見据えた地域創生と地域コミュニティを担うことの出来る人材育成」を行うことを掲げた。目標に掲げた人材育成を行うに当たって、運用プラットフォーム

と教育プログラムを構築しようと、2016年度から高浜町および和田 de 路地祭実行委員会（以下、実行委員会という。）の協力を得て開催してきている。また、和田 de 路地祭のなかで福井県内5大学の専門性（地域運営、交通まちづくり、看護・健康、メディア・広報、コミュニケーション、建築など）とネットワークを活かして、学生や教職員と地域住民が協働し取り組むことを目的としている。

2019年度より路地祭への高浜町の支援が縮小したため、地域住民が真に主体となってまちづくりを行うことが必要となり、これまでよりも学生のノウハウや支援が不可欠であるとの地域からの熱い要望が挙がった。これまでも、今後の過疎地域における住民主体の自律的なまちづくりに貢献しようと取り組んできたが、更なる地域との連携・絆を強めながら進めていくことが求められている。

3.1.2 まちづくり実践ワークショップ2019を進めるに当たっての留意事項

2019年6月に開催した第1回まちづくり分野WG会議ならびに第1回学生企画会議の際に、下記の点を2019年度には変更して進めていくことを決定した。これは、路地祭実行委員会から要請があった事項である。

- ① 実行委員会の運営に学生が携わり、学生企画の他にも学生は実行委員会の運営支援等も連携しながら進めていく。
- ② 2018年度まで民宿を営まれてきた空き家（以下、空民宿という。）の中山邸を活用してきたが、維持管理の困難等の理由で取り壊されたため、2019年度には空民宿の村橋邸を活用する。
- ③ 学生拠点エリアについて、中山邸が立地していた和田地区西側から村橋邸が立地する和田地区東側（浦和田地区）に遷す。

その他、実践WSの学生企画を行う場所については、空民宿の村橋邸の他に、空き家の大新旅館跡の建物およびゲストハウスのカメハウスとすることを実行委員会との協議を得て決定した。

3.1.3 まちづくり実践ワークショップ2019の企画立案

2019年度の学生企画コンセプトとして、「日々、浦和田」と学生企画会議から提案がなされ、まちづくり分野WG会議で決定した。コンセプトを決めるに当たって、浦和田地区の路地や景観・風景は住民にとって日々暮らしていくなかでは当たり前であるが、来訪者にとっては非常に美しいと思える風景や住民にとっても面白い場所が隠されているのではないかとといった点に着目した。路地祭という非日常の体験のなかで、楽しく遊びながら浦和田の日々の当たり前を来訪者に体感・体験してもらいたいという思いと、住民のシビックプライドの醸成を高めたいという思いから設定がなされた。

学生企画を行うに当たり、班編成を総合案内班、村橋邸班、路地班とした。2019年度には5大学合計で48名が参加し、本学の学生は工学部建築土木工学科、同学部原子力技術応用工学科、環境情報学部環境・食品科学科、同学部経営情報学科、大学院工学研究科といった多岐に亘る分野の学生が13名参加した。

学生の企画は、第2回学生企画会議を経て、Fig.1, Fig.2に示すように第2回まちづくり分野WG会議にて各班がプレゼンを行った。プレゼン内容は下記のとおりである。

① 総合案内所班

大新旅館跡の建物では和田小学校からの要望もあり小学生と大学生がコラボレーションし、総合案内ならびに小学校企画が行うことができるように設えを行う。カメハウスでは、子どもも大人も楽しめてくつろげる空間を提供しようと、学生の特技・趣味等を活かしたジオラマワークショップやTシャツづくりワークショップの実施、ホットサンドや、たい焼き、焙煎珈琲の販売を行う。また、広報も担当し、インスタグラムやツイッターといったSNSを活用して路地祭の機運を高める工夫等についての提案がなされた。

② 村橋邸班

村橋邸の特性（例えば、建物と路地との距離、和室の広さ等）を考慮して、住民には“昔懐かしい”と思える空間、来訪者には“つい長居をしてしまう”といった空間を目指すとした。その方策の一つとして、浦和田地区の昔の景観の一つであった床几からヒントを得て、村橋邸でのテーブルや腰掛としてのミニ床几を作製することが提案された。

③ 浦和田路地班

「游美（あそび）～めぐってみつけ、和田の路地～」をテーマに、路地の博覧会や体験型宝探しといった企画が提案された。行うに当たっては、和田や浦和田らしいもの（例えば、シーグラス、貝殻、竹等）を用いて路地

を彩っていくことも併せて提案がなされた。これまでも、地域住民から浦和田地区にも人が流れる仕組みづくりを提案してほしいといった要請がなされてきた。

学生は前述したプレゼン内容を教職員から指摘のあった事項について修正し、第5回路地祭実行委員会にてプレゼンを行った（Fig.3）。第3回学生企画会議等を経て学生企画の最終決定を行い、高浜町和田地区にて9月9日より作業を行うこととした。最終的な学生企画の内容に関する報告としては、9月11日に開催された第5回路地祭実行委員会にて各グループの代表者が発表し、地域住民の方々への賛同と理解を深めた。

高浜町和田地区での作業（Fig.4）は8月20日（火）より順次開始しており、学生たちは本格的に9月9日（月）から一週間可能な限り宿泊し、多くの日数を現地で過ごすことで住民の方々との信頼向上に努めた。



Fig.1 学生企画を検討している様子



Fig.2 第2回まちづくり WG 会議の様子

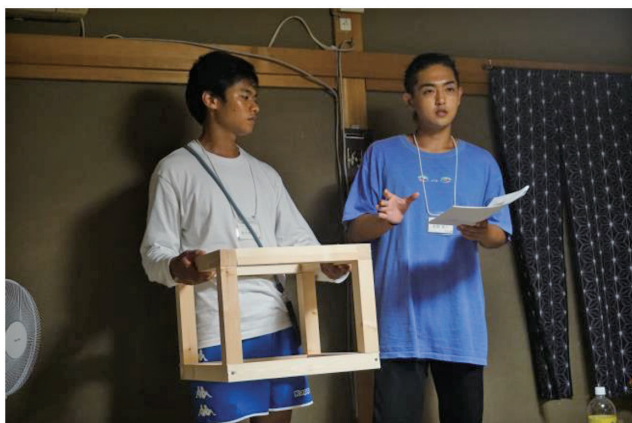


Fig.3 路地祭実行委員会へのプレゼンの様子



Fig.4 現地での作業の様子

3.2 まちづくり実践ワークショップの開催

2019年9月15日（日）に開催される第11回路地祭に向けて、学生たちは自ら企画を考え、住民の方との協働によって検討を進め、次の企画内容を実施した。

①総合案内班

大新旅館跡の建物において、和田小学校の小学生とコラボした総合案内拠点を創出するとともに、カメハウスにおいて、オリジナルTシャツやトートバック、アクセサリづくりのワークショップ等を行った。

②村橋邸班

ローテーブルや椅子にカタチを変えるミニ床几の作製や設置、路地と建物とのつながり・楽しみ方を提案しながらカフェの運営を行った。

③浦和田路地班

地域の方とともに、空き缶で作製する幸運の風車の設置や、竹パターゴルフ、和んだーげーとといった路地を体験する博覧会を実施した。

2019年度は前述したように「日々、浦和田」を全体のコンセプトとして実践WSに取り組んだ。路地祭前日の14日（土）には前夜祭として、住民・来訪者が一体となって外でコミュニケーションを図ることのできる長街宴やファッションショーが開催され、学生は運営支援を行った。また、ファッションショーでのモデルとして活躍した学生もいた。Fig.5 に実践WSの様子を示す。

学生が実践WSに関する投稿を行ったインスタグラムでの広報について、Fig.6 に示す。



Fig.5 路地祭および実践WSの様子



Fig.6 インスタグラムでの広報

3.3 まちづくり実践ワークショップを終えて

実践 WS を終えて、参加学生より Table.2 に示す意見が挙がった。

Table.2 参加学生からのコメント

① 学生としての立場、路地祭事務局としての立場等、様々な立場に自分自身が立ち、また様々な立場の人とコミュニケーションをとることにより、調整役的なスキルは強く身に付いたと思う。もっとリーダーとして、強く引っ張る力を身に付けたかった。
② 活動に参加したからこそ自分たちで考えて実際に行動に移すことの大変さや充実感を味わうことが出来ました。
③ 班長として、COC+を引っ張る立場としての自分には全く満足できていません。とても自分の力不足を痛感する泊まり込み期間でした。
④ 普段の生活のなかではすることができない経験を多くした。
⑤ まちづくりを行うプロセスの中で、チームメイトや地域の人との意思疎通が大きな役割を果たしていたため、相手の話を聞きながら自分の考えを述べることを意識できた。
⑥ まち歩き中の立ち話、物の貸し借り、風車の作り方教室、路地使用のお願い、会場準備、片付け等を通して、地域の方々とコミュニケーションを多くとることができました。

実践 WS を通して身に付いたと思う力について Fig.7 に示すと、他者との豊かな関係を築く力（コミュニケーション力）が 65.0%と最も高い割合であった。続いて、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力（情報把握力）が 60.0%、課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力（計画力）が 55.0%であることが分かる。学生の参加者は 48 名であったが、回答は 20 名に留まった。20 名に留まった理由として考えられることは、当日の参加や多くの日数に参加できなかった学生がいるためでないかと考えている。昨年度の課題を活かし、実践 WS の LINE グループでの依頼や第 3 回および第 4 回まちづくり分野 WG 会議ならびに、第 6 回路地祭実行委員会での依頼を行ったが、アンケートの回答率は昨年度を下回る 41.7%であった。

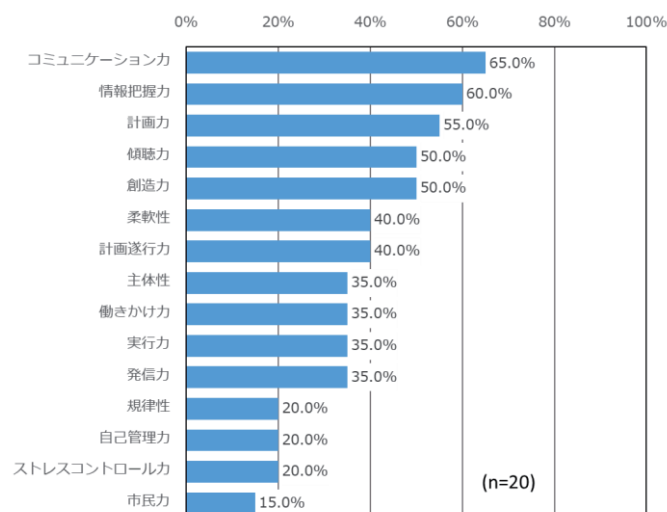


Fig. 7 参加学生が実践 WS を通して身に付いたと思う力

将来的には、住民主体の自律的なまちづくりを実現するために、これまで学生が高浜町和田地区で開催される和田 de 路地祭に参画してきた。実現を達成するためには、学生の他に住民を対象とした調査も行っていく必要があるが、これまでも実施を模索してきているものの、地域住民への負担等の理由で実施できていない状況にある。今後、住民を対象とした調査を行い、単なる学生と地域協働による活動に留まるのではなく、さらに学術的にも高い価値を見出すことができるように取り組んでいきたいと考えている。

4. おわりに

COC+まちづくり分野 WG で2016年度より実施した実践 WS には、これまでに延べ130名の学生が参加しており、本学からは延べ45名の学生が4年間で参加した。実践 WS を通して、学生が地元住民とともに企画・運営に携わったことで、学生間はもちろんのこと地元住民との交流を図るなかで、住民との信頼関係を築けたのではないかと考えている。さらに、景観・空き家活用・観光まちづくりについて、現場で体験しながらまちづくりを行うに当たっての技術を学生が身につけた。WG が目指してきた、地域での実践活動を通して「まちづくりを担う人材の育成」とりわけ次代を見据えた地域創生と地域コミュニティを担うことの出来る人材育成について概ね達成できたのではないかと感じている。こういった取り組みを通じて、5大学連携 PBL として2020年度のふくいアカデミックアライアンス（FAA）福井版 PBL への申請につながっている。COC+事業は終了するが、今後も5大学が連携して「まちづくりを担う人材の育成」を目指して展開を図っていきたい。

謝 辞

COC+まちづくり分野 WG での活動に際し、WG 幹事校である福井大学の野嶋慎二教授をはじめ、各大学の教職員の方々、高浜町の方々に多大なるご支援・ご協力していただきました。また、2019年度の活動を行うに当たり、県内大学の地域人材育成事業（福井県）より助成を受けました。ここに記して謝意を表します。

文 献

- (1) 吉村 朋矩, 伊豆蔵 庫喜, “COC+事業における特色人材育成部門まちづくり WG の活動報告（その1）”, 福井工業大学研究紀要, Vol. 47 (2017), pp. 343-348.
- (2) 吉村 朋矩, 伊豆蔵 庫喜, “COC+事業における特色人材育成部門まちづくり WG の活動報告（その2）”, 福井工業大学研究紀要, Vol. 48 (2018), pp. 189-195.
- (3) 吉村 朋矩, 伊豆蔵 庫喜, “COC+事業における特色人材育成部門まちづくり WG の活動報告（その3）”, 福井工業大学研究紀要, Vol. 49 (2019), pp. 298-304.

(2020年9月10日受理)